

第4章 高安千塚古墳群の現状

第1節 保存管理の現状

史跡高安千塚古墳群の保存管理を考えるため、植木畑の中に古墳が分布する服部川支群を中心とした土地利用の現状と、大窪・山畑支群及び郡川北支群の土地利用の現状について確認する。

(1) 服部川支群の土地利用

服部川支群の土地利用は、地目上は一部原野や市が管理する里道があるが、植木畑を基本とする畑や山林が大部分を占める（表 4-1）。服部川支群の一带では、戦後の農地解放によって、耕作地の確保のため、段々畑状に土地が造成され、植木畑への利用が進められた。その過程で破壊された古墳もあると考えられるが、多くが古墳を避けて造成されたようで、造成当時の面影をとどめる石積み（石垣）が残されている。

表 4-1 服部川支群 史跡指定地の土地利用状況

登記上地目	畑	山林	原野	宅地	墓地	里道(市)	合計
面積(㎡)	36,681.00	20,957.79	2,635.00	0	0	1,312.74	61,586.53



出典：アサヒ写真ブック 17「空からみた古墳」昭和30年4月

図 4-1 戦後直後の服部川支群

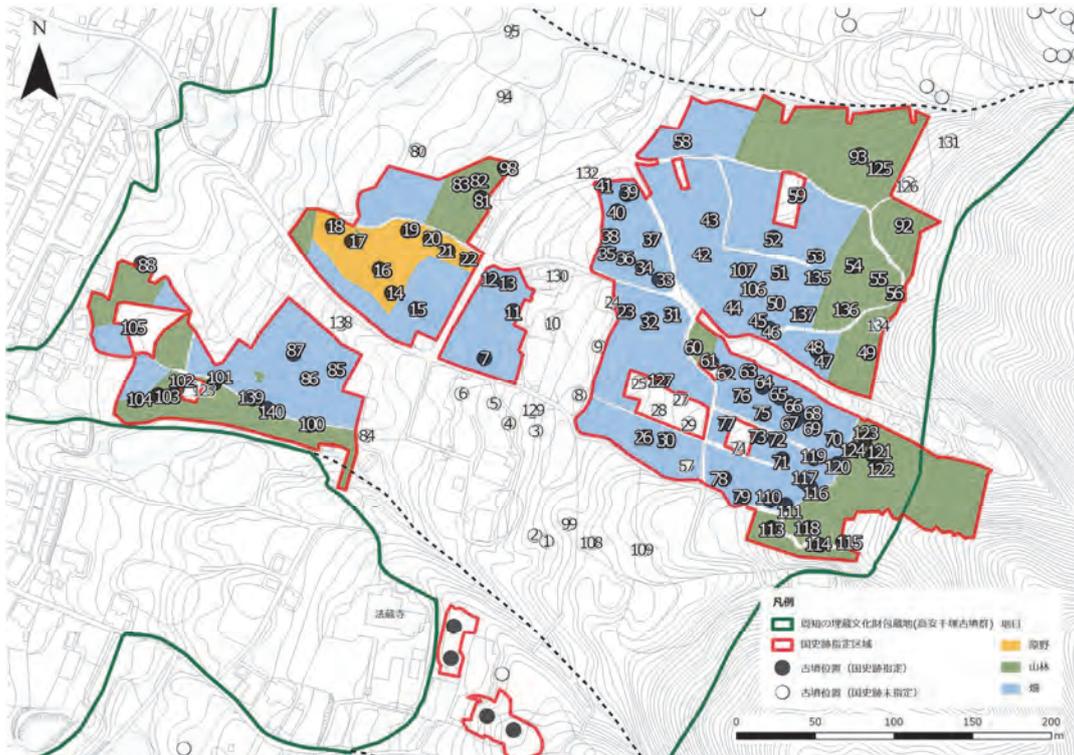


図 4-2 服部川支群 史跡指定地内の地目

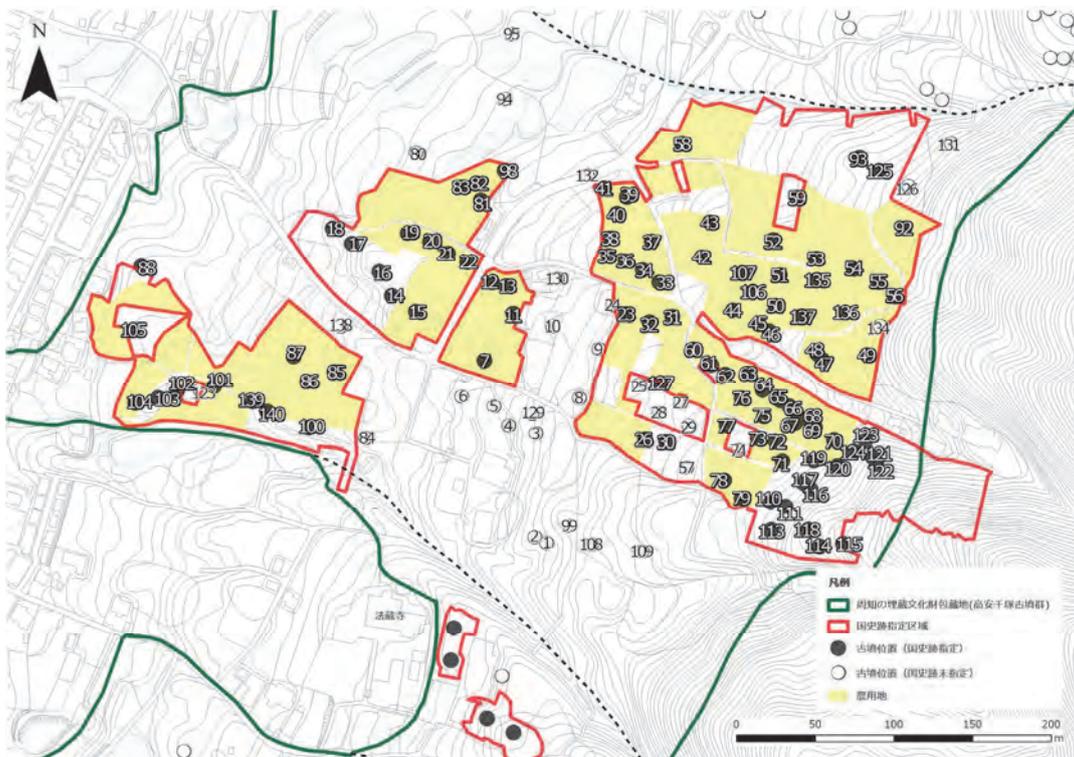


図 4-3 服部川支群の農用地指定状況

服部川支群の植生は、生駒山系に広がるサカキーコジイ群集に属している。しかし、これらの自然木だけでなく、植木畑では庭園木が多く生育されている。平成 27 年度に実施した墳丘及び周辺を中心とした樹木調査によると、サザンカやイロハモミジなどの庭園木が多く、樹種は 100 種類に及び、多種多様な樹木を確認できた（表 4-2）。これらは、昭和 30 年から 50 年代の植木業の盛行期にかけて植えられ、成長したものが大部分である（図 4-4・図 4-5）。

これら庭園木を中心とした樹木の繁茂は、大木化による石室の圧迫や倒木による墳丘の破壊、根系の侵入による石室の破壊等が、史跡の保存管理上、影響を与える可能性が高い。さらに、古墳の視認性の悪化を招いている。また庭園木が多数を占め、本来の森林植生とは異なることも、今後の植生管理の課題といえる。

その反面、樹木は、緑陰の形成や地被植物の生育、根系の発達、落ち葉の堆積などによる土壌の乾燥の防止、墳丘表面の土壌流出抑制につながっている。また、花木が多いことから、四季を通じて色とりどりの花が咲く独特の景観の形成に寄与しており、今後の活用を考える上で、これら庭園木の取扱いが課題である。

表 4-2 服部川支群の墳丘上の樹木（一部）

樹種	区分	墳丘上の 本数（本）	平均樹高 （m）	平均幹周り （m）	平均枝張り （m）
サザンカ	常緑広葉樹	766	2.9	0.21	1.7
イロハモミジ	落葉広葉樹	298	5.9	0.40	4.0
アラカシ	常緑広葉樹	199	6.3	0.54	3.7
キンモクセイ	常緑広葉樹	193	3.4	0.29	2.0
ウバメガシ	常緑広葉樹	173	6.4	0.57	4.2
シラカシ	常緑広葉樹	123	4.5	0.30	2.1
サルスベリ	落葉広葉樹	112	4.6	0.26	2.0
モッコク	常緑広葉樹	110	3.7	0.28	1.8
ネズミモチ	常緑広葉樹	97	4.0	0.26	2.4
クロガネモチ	常緑広葉樹	93	5.6	0.47	3.2
ヤブツバキ	常緑広葉樹	86	3.5	0.20	2.0
ナナミノキ	常緑広葉樹	68	8.2	0.85	5.0
ハゼノキ	落葉広葉樹	66	5.2	0.32	3.5
ソメイヨシノ	落葉広葉樹	65	6.9	0.58	4.4
ウメ	落葉広葉樹	63	3.8	0.34	2.8
コナラ	落葉広葉樹	62	8.9	1.00	6.3
スギ	常緑針葉樹	55	8.5	0.48	2.3
ヒイラギ	常緑広葉樹	55	2.5	0.14	1.0
ヤマザクラ	落葉広葉樹	53	7.3	0.76	5.6

※平成 28 年 1 月から 3 月に実施した樹木調査の結果のうち、50 本以上確認された樹種を抽出した表である。調査対象木は、服部川支群の史跡指定されている墳丘上に生育する樹木のうち、自然木は幹回り 3 cm 以上、庭園木は全木を対象とした。株立ち木は株立ち本数に限らず 1 本としている。なお、枯死木や幹回り 3 cm 未満の樹木はこの表では計上していない。

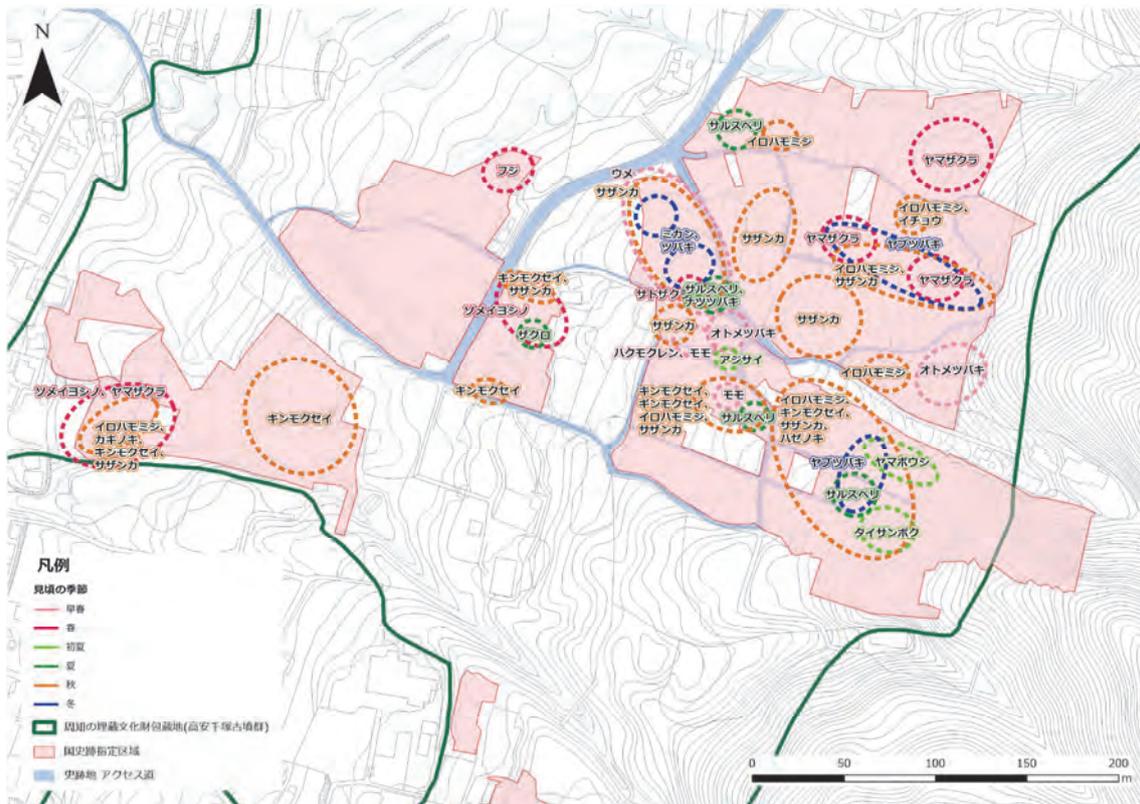


図 4-4 服部川支群に生育する花木の位置

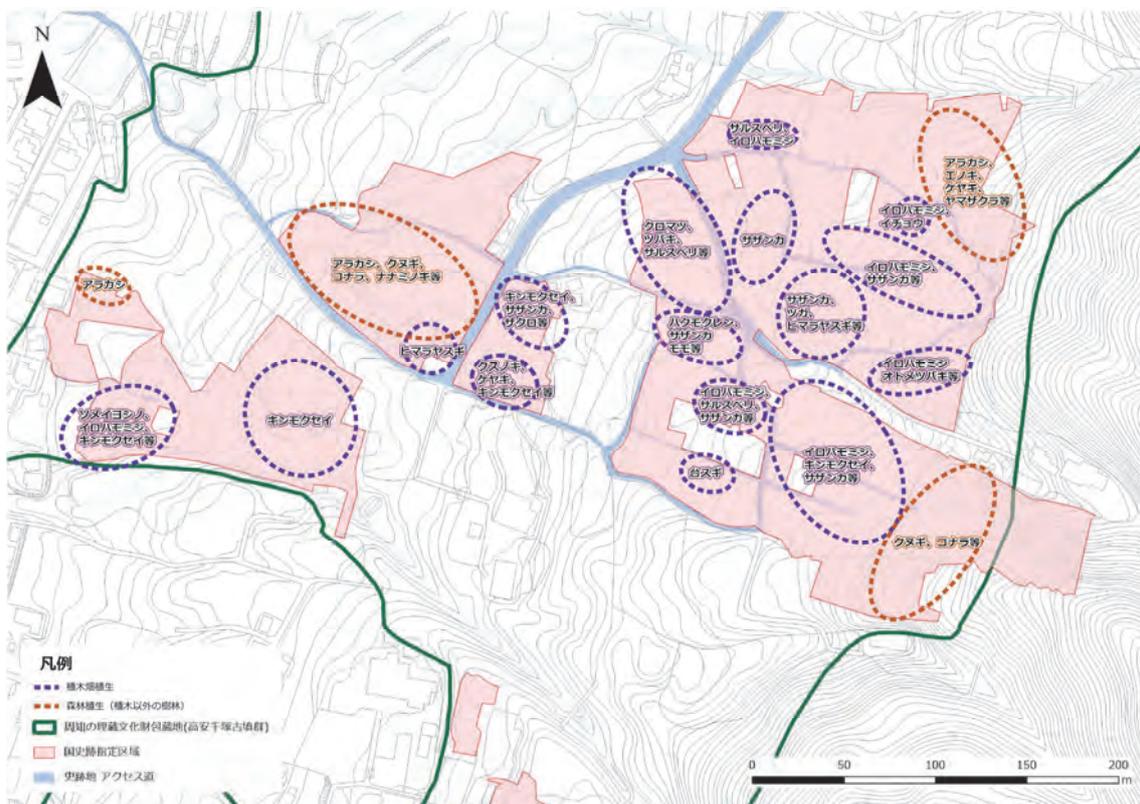


図 4-5 服部川支群の植木畑植生と森林植生の位置



管理された植木畑



サザンカの植木畑（服部川 23 号墳）



支群東側の急傾斜面の森林植生



鬱蒼とした森林

図 4-6 服部川支群の植生

（2）大窪・山畑支群の土地利用

地目上は、大窪・山畑 6 号墳及び 7 号墳は山林、大窪・山畑 27 号墳は宅地である。実際には、大窪・山畑 6 号墳及び 7 号墳の周辺は、来迎寺の墓地が造成されているが、史跡指定範囲に墓地は含まれていない。墳丘上に樹木等はなく雑草のみで、寺院により定期的な除草がなされている。

大窪・山畑 27 号墳は、周囲の住宅開発から免れた古墳がある。墳丘をクマザサや雑木などが覆い、墳丘土の流出を防いでいる。

表 4-3 大窪・山畑支群 史跡指定地の土地利用状況

登記上地目	畑	山林	原野	宅地	墓地	里道(市)	合計
面積(m ²)	0	183.15	0	151.25	0	0	334.40

(3) 郡川北支群の土地利用

江戸時代の『河内名所図会』で紹介されてきたように、古くから法蔵寺の境内になっており、地目上は墓地と山林からなる。墓地については、寺院により管理がなされているが、周辺の山林は自然林に近い植生で、コナラやクスノキ、アラカシ、スギ、クロマツ等の高木が点在する。

郡川1号墳及び4号墳は、法蔵寺を開山した好山和尚の廟塔である清涼塔^{せいりょうとう}の背後の樹林地にある。斜面に石垣をめぐらしているが、周囲の植木畑から高木や竹の侵入などがみられる。

郡川2号墳、3号墳、3-B号墳は、法蔵寺の本堂に近く、古墳の一带は竹林が多くを占め、スギの植林地が一部みられる。2号墳は、繁茂した竹で石室入口が覆われている。また3号墳は、石室上部をアラカシの大木が覆っている。

表 4-4 郡川北支群 史跡指定地の土地利用状況

登記上地目	畑	山林	原野	宅地	墓地	里道(市)	合計
面積(m ²)	0	1,404.07	0	0	415.76	0	1,819.83

第2節 活用の現状

(1) 古墳の活用

高安千塚古墳群の本質的価値を伝え、活用するための古墳名板等の設置などの整備の現状を第3章で確認した。ここでは古墳個々の活用の現状について述べる。

古墳は大半が私有地であることから、土地所有者の理解と協力のもと、高安千塚古墳群を特徴づける古墳を中心に限定的に公開している。見学は、特に石室内の安全面に支障がない古墳について、石室内の見学の可否などの見学方法や見学時のマナー等を記し、市の高安千塚古墳群を紹介した冊子で紹介している。これら見学可能な古墳を中心に見学コースを設定しており、個人による古墳見学や古墳めぐり等で活用している。

[見学可能な高安千塚古墳群の古墳] (平成29年3月現在)

服部川支群：服部川7号墳、25号墳(二室塚古墳・市史跡)、42号墳、78号墳

大窪・山畑支群：大窪・山畑7号墳(拔塚古墳)、8号墳、27号墳(俊徳丸鏡塚古墳)

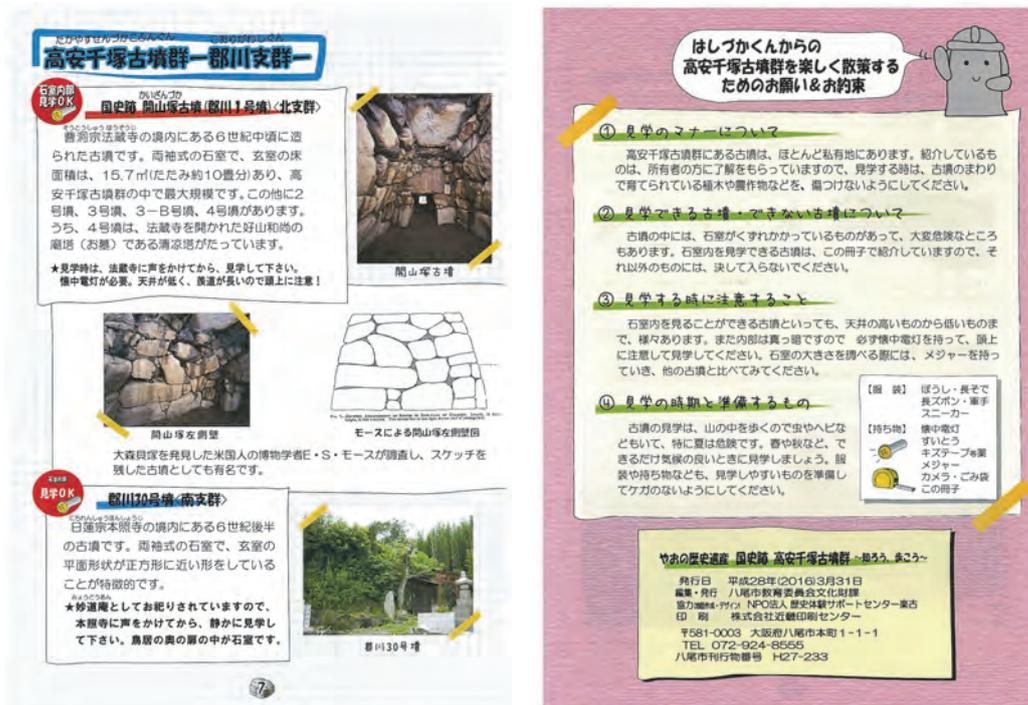
郡川北支群：郡川1号墳(開山塚古墳)

郡川南支群：郡川30号墳



出典：八尾の歴史遺産 国史跡高安千塚古墳群～知ろう、歩こう～ 平成28年3月

図4-7 見学可能な古墳を冊子で紹介(その1)



出典：八尾の歴史遺産 国史跡高安千塚古墳群～知ろう、歩こう～ 平成 28 年 3 月

図 4-8 見学可能な古墳を冊子で紹介（その 2）

（2）文化財施設における活用

現在、高安千塚古墳群の活用事業は、山麓部にある文化財施設の八尾市立歴史民俗資料館、八尾市立しおんじやま古墳学習館が中心に行っている。以下、主に平成 25 年度から平成 27 年度にかけて実施された活用事業は以下のとおりである。

①八尾市立歴史民俗資料館（千塚三丁目 180 番地の 1）

八尾市立歴史民俗資料館は、市内の文化財を調査、研究し、収集、保存を図るとともに、展示等を通して広く公開する施設で、本市の歴史、民俗の中心施設としての役割を担う。近鉄信貴線「服部川」駅から徒歩 8 分に位置し、高安千塚古墳群に近い。

常設展示「大和川流域と高安山-その歴史と文化-」をテーマとして、その他特別展や企画展で、高安千塚古墳群など古墳に関わる調査研究及び展示を行っている。また、高安地域の地場産業である植木・造園業や、伝統芸能である高安能などをテーマにした展示やイベント等を開催するなど、積極的な活動を行っている。（表 4-5）

また、展示だけでなく、現地見学等の支援、その他関係施設や機関との連携、関係図書刊行を行っている。刊行物には、高安千塚古墳群の理解を深めることができるものや子ども向けの古墳学習ができるものを作成している（表 4-6 参照）。また、学校の見学の受け入れは、市内小学校を中心に年間 20 校程度を受け入れている。

表 4-5 八尾市立歴史民俗資料館の古墳・高安地域に関する事業

項目	内容	備考
展示	大和川流域と高安山ーその歴史と文化ー」(H27/246日・H26/253日・H25/246日)	常設展
	市指定文化財 森田山古墳出土品の紹介(H27/18日)	スポット展示
	八尾の古墳を知ろう(H27/46日)	スポット展示
企画展	高安千塚古墳群ー岩本文ーコレクションの紹介ー(H27/61日)：高安千塚古墳群が国指定史跡になったことを記念し、山麓の古墳群を紹介した岩本文ー収集資料を紹介する展示。	観覧者数 1,372名
	高安の花づくりー栽培から流通までー(H27/51日)：古文書資料、古写真、各季節の花の写真や花づくりの道具を通して、江戸時代から現代に至る八尾の花づくりを紹介。	観覧者数 1,495名
ミュージアム トーク	市指定記念 森田山古墳出土品の紹介(H27)	11名参加
	高安千塚を歩いた人ー岩本文ー(H27)	52名参加
	高安千塚からみつかった遺物(H27)	15名参加
	信貴線と高安山(H27)	15名参加
	高安の花づくりー歴史と背景ー(H27)	13名参加
	高安の花づくりー栽培と流通ー(H27)	14名参加
生涯学習	歴史ハイキング「高安千塚古墳群を歩こう！」(H27)	38名参加
市民研究会	「八尾まち歩き研究会」①高安郡の事前学習②恩智・神宮寺村を歩く③神立・楽音寺を歩く④高安郡の学習⑤服部川・郡川を歩く⑥高野街道を歩く⑦高安千塚を歩く⑧信貴道を歩く⑨千塚・山畑・大窪を歩く⑩黒谷・垣内・教興寺を歩く⑪大竹・上代・水越を歩く(H27)	のべ372名

表 4-6 八尾市立歴史民俗資料館の高安千塚古墳群に関連する刊行物

刊行物名	概要
高安郡の総合的研究	調査研究報告(平成26年3月31日発行) 平成21-25年度に旧高安郡について調査研究した「歴史的環境」、「葬送と祭礼」、「村の生業」の3つのテーマで整理
八尾の考古学ー先人たちの軌跡をたどるー	特別展図録(平成24年度10月) 日本考古学史上著名な八尾市内の遺跡の出土品を通じて、八尾の考古学史を紹介
高安の神と仏人と信仰 歴史民俗資料館	特別展図録(平成22年10月) 玉祖神社の鎮座1300年を記念して、高安地域全体の宗教や信仰を紹介
八尾の渡来文化	特別展図録(平成20年10月) 古墳時代中期から後期に八尾市とその周辺で出土した集落内の土器や古墳の副葬品から河内の渡来文化を紹介
大和川流域と高安山ーその歴史と文化ー	常設展図録(平成19年4月)



刊行物名	概要	
河内に眠る王たち	特別展図録（平成17年10月） 心合寺古墳史跡整備完成を記念して開催された特別展。古墳時代の王たちがどのような古墳に葬られたのか、どのようなものを所持していた人物が「王」と呼ばれていたのかを、河内の古墳から出土した副葬品を中心に紹介	
子ども古代探検 八尾 高安古墳群 —誰がどうやって造ったの?—	企画展図録（平成15年4月） 子ども向けにわかりやすく高安古墳群を紹介	
卑弥呼の時代と 八尾—河内の大 集落出現と古墳 の始まり—	特別展図録（平成14年10月） 八尾を含む中河内の弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡や遺物を紹介し、卑弥呼とその前後の時代の社会情勢の変動や地域の特性を紹介	
高安城と古代山城	特別展図録（平成10年10月） 古代の山城をテーマにした展覧会の図録。高安城跡推定地からの出土資料や福岡県大野城、岡山県鬼ノ城などを紹介	
河内愛宕塚古墳 とその時代	特別展図録（平成8年10月） 大阪府指定文化財になった愛宕塚古墳出土遺物を紹介	
河内愛宕塚古墳 の研究	（平成8年） 愛宕塚古墳の発掘調査報告書	
古代氏族とその 遺宝—W・ゴーラ ンド教授を顕彰 して—	特別展図録（平成3年10月） ゴーランドと高安古墳群に関する資料を紹介	
子ども古墳学習 ノート—八尾愛 宕塚と山麓の古 墳—	（平成15年3月） 子ども向け古墳学習の教材として、小学校高学年から中学生を対象にした、山麓部の古墳について、身近な文化財として理解を深めてもらうための学習ノート	

②八尾市立しおんじやま古墳学習館（大竹五丁目143番地の2）

八尾市立しおんじやま古墳学習館は、中河内最大の史跡心合寺山古墳の西側に隣接したガイダンス施設である。心合寺山古墳の出土品を中心とした展示を通して「心合寺山古墳の時代」と復元整備された古墳とともに、高安山麓の豊かな歴史や文化財を学ぶ施設である。

心合寺山古墳に対する理解を深めるための多様な事業を実施しており、キャラクター（ハニワこうてい、はしづか君）を活用した広報活動など、新たな来館者層の開拓

に努めている（表 4-7 参照）。また、学校見学の受け入れは、市内小学校を中心に年間 15 校程度を受け入れている。

表 4-7 八尾市立しおんじやま古墳学習館 普及事業

項目	内容	備考：H25/H26/H27
古墳の活用	古墳クイズラリー	564名/772名/675名
	こふんはにはに部（体験講座：H27）	158名
	しおんじやま体験まつり（夏・秋）H25は秋のみ	のべ986名/877名 /201名
	しおんじやま学び場（講演会）	343名/365名/250名
	しおんじやま遊び場（月替わり体験メニュー）	202名/182名/398名
古墳の活用	ハニワこうていの古墳案内ツアー（H26：2回/H25：7回）	34名/110名
	おそうじボランティア（毎月1回）	34名/50名/54名
	しおんじやまミーティング	8名/8名/11名
	コフン de クラフト部（大人のための体験講座）	30名
	大阪巨大古墳体験ツアー	63名/16名/27名
展示	トピック展示：八尾古墳大図鑑（「高安山麓の古墳・妖怪・伝説を探検しよう～箸塚伝説編～」、「すごいぞ！やおのハニワ」など）	

（3）その他の活用

①自然環境の活用

○環境アニメイティッドやお

高安山を対象とした山麓部の自然環境の活用として、「環境パートナーシップ協議会 環境アニメイティッドやお」が活動を続けている。環境をテーマとして高安山の歴史や古墳に関する取り組みを行っている（表 4-8 参照）。

表 4-8 環境アニメイティッドやおの高安山に関連する普及活動

活用項目	内容	備考
高安の森 自然楽校	高安山の自然環境を守るため、高安山の森林を整備するなど、若い世代が自然と触れ合う機会の創出	27年度・26年度：高安山のツル採取とリース作り（21名・33名）／高安山のツル採取とカゴ作り（22名・20名）、26年度：高安山の自然観察・環境講座（25名）
八尾のふるさと 歴史楽校	高安山麓の歴史に関するハイキング等の実施	27年度・26年度：伝承在原業平平河通いの道（54名・48名）／高安千塚古墳群を歩く（53名）

活用項目	内容	備考
高安山自然再生 定期活動	高安山のため池に生息するニッポ ンバラタナゴを保全するため、水環 境の健全化や森林整備の実施	27年度：郡川上流部森林整備 環 境教育 エコツアー（11回 266 名・12回 142名）

②地域資源の活用

山麓部の観光の充実のため、一般社団法人八尾市観光協会とNPO法人八尾市観光ボランティアガイドの会が、地域資源（観光資源）の一つとして史跡心合寺山古墳など古墳に関連する活動を行っており、高安千塚古墳群の紹介等も進めている。

○一般社団法人 八尾市観光協会

一般社団法人八尾市観光協会は、近鉄八尾駅の観光案内所を活動拠点として、市内の活性化につながる地域文化の振興等や活力あるまちの形成を目指し、情報発信を中心とした事業を実施している。観光おすすめモデルコースの中で、「古墳巡り 心合寺山古墳周辺コース」や「古墳巡り 高安古墳群コース」を設定している。

「古墳巡り 高安古墳群コース」の例：所要時間と距離：約75分 約6.0km

近鉄「服部川」駅→俊徳丸鏡塚古墳（大窪・山畑 27号墳）→抜塚（大窪・山畑 7号墳 他 8号墳）→二室塚古墳（服部川 25号墳 他 7号墳）→開山塚古墳 郡川 1号墳 他郡川 2～4号墳→黒谷 1号墳（郡川 30号墳）→近鉄「信貴山口」駅

○NPO法人 八尾市観光ボランティアガイドの会

NPO法人八尾市観光ボランティアガイドの会は、八尾の魅力を全国に発信するため、各種団体などが主催する観光案内のサポートや、八尾のオリジナル観光マップの作成、ボランティアガイドの活動等を行うNPO法人である。

史跡心合寺山古墳を中心として、府史跡愛宕塚古墳、さらに史跡高安千塚古墳群などの高安山麓の古墳を見学するためのガイドの要望は、年々増えている。

第3節 保存活用の運営・体制の現状

史跡高安千塚古墳群における保存活用（「保存管理」、「活用」、「整備」）のため、土地所有者と史跡の管理団体である八尾市及び八尾市教育委員会のそれぞれの役割を適切に行うことが基本となる。

（１）「保存管理」の運営・体制の現状

現状、史跡指定地のほとんどが民有地であることから、土地所有者により保存管理が行われている。史跡の土地利用でも確認したように、史跡指定地内の大半を占める服部川支群の土地利用では、植木の植え替えや定期的な植栽管理を行っている畑が少なくなっている。山林でも計画的な樹林管理を行っている様子は見られなくなっている。一方、大窪・山畑支群や郡川北支群の寺院境内にある古墳については、寺院により定期的に除草等の管理が行われている。

八尾市及び八尾市教育委員会は、史跡の管理団体として、史跡の保存管理に必要な現状変更に対する助言及び指導、申請手続き及びその許可、大阪府や文化庁との調整を担っている。

史跡の現状を定期的に観察、把握し、継続的な情報の更新と迅速かつ的確な対応が必要である。そのため、適切な保存管理に向けて、土地所有者と国、大阪府、市の役割分担を図りながら相互に連携した体制を整える必要がある。

（２）「活用」・「整備」の運営・体制の現状

八尾市教育委員会では、高安千塚古墳群への市民の理解を高めるため、石室内の見学の可否の検討を行い、土地所有者の了解が得られた古墳については、古墳名板や解説板を現地に設置するなどの整備や、これら見学可能な古墳をパンフレット等で紹介している。さらに「高安千塚古墳群保全活用ボランティア」を募集、育成し、市民協働による古墳の草刈り等の保全活動に取り組んでいる。

文化財施設である八尾市立歴史民俗資料館では、高安千塚古墳群など古墳の出土品の展示等を行い、八尾市立しおんじやま古墳学習館では、古墳学習の一環として高安千塚古墳群の現地見学等を企画している。また、高安山麓の自然環境を中心とした活用を環境アニメイティッドやおが、地域資源としての活用を一般社団法人八尾市観光協会やNPO 法人八尾市観光ボランティアガイドの会が行っている。

今後、本計画に基づき、八尾市及び八尾市教育委員会と土地所有者や地域住民、関係機関等と十分な意思疎通を図りつつ、高安千塚古墳群への理解を促すとともに、保存活用の体制を整えることが必要である。

